

生存科学研究ニュース

VOL. 15. NO. 3 2000. 5. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3563-3518 FAX 03-3567-3608

平成11年度第7回3役会

平成12年3月17日（金）午後2時より3役会が生存科学研究所会議室で開催され、下記の項目について検討された。

- (1) 平成11年度事業報告の粗案
- (2) 平成12年度の理事会等の日程
- (3) その他

第1回常務理事会

平成12年4月27日（木）午後1時より生存科学研究所会議室において常務理事会が開催され、平成11年度事業ならびに収支報告など、5月に開催する第1回理事会・評議員会の準備について話し合われた。

生存科学講座委員会

平成12年4月8日（土）午後4時より生存科学研究所会議室において表記委員会が開催された。

前回に引続き平成12年度の講座の進め方、日程などについて検討した。

その結果、講座の開催は昨年度同様、年3回とし、第1回は「現状認識」、第2回は「ミクロ的立場から見た社会復権」、第3回は「マクロ的立場から見た長寿社会の未来」を掲げ、テーマに連続性を持たせた。講演者については「21世紀世界の文明と生存の研究会」のメンバーの中から候補者を挙げ、依頼交渉をすることが決まった。また、開催形式は鼎談形式をとり、生存科学研究所の思想を社会に提言していくこととした。

	開催日	テーマ
第1回	9月30日（土）	長寿社会の問題
第2回	10月21日（土）	社会への復権
第3回	11月25日（土）	長寿社会の未来

各回とも 会場：銀座 教文館ビル9階
時間：午後2時～4時30分

次号ではさらに詳細についてお知らせいたしますので、皆様奮ってご参加ください。

(小島静二)

平成12年3月26日（日）表記研究会が京都パークホテルで開催された。

年度末が迫っており、発題者への依頼が難しかったが、研究成果をより充実させるために、また今年度の締めくくりとして日高代表に発題者となっていた。

テーマは「欲望の起源と進化—美学を持ったホモサピエンス—」。紙面の都合上、印象に残った点を簡単に記す。

欲望とは、人間だけにあるものではなく、すべての動物が備えているプログラム（心地よいことを好む）であり、生きる意欲も欲望であり、すべての食餌行動、あるいはテリトリー行動も欲望あつてのことである。ただし、権力欲や拝金主義は人間だけに見られる欲望で、非常に厄介な問題であると話された。

講演のなかで特に興味があつたのは、散歩をなによりも喜ぶ犬の習性は、排便とテリトリーのための匂い付け行動によるものと誰しもが思い込んでいることが、そうではないという点だった。

犬は狼の血を引き、その遺伝子はほとんど残っている。狼は長距離を歩き回る習性を持っているが、あれは餌を探すための行動である。犬も同じように走り回ることが好きなのは、飼われているとはいえ、その狼の習性が残っていて、歩き回ること自体が楽しいようにプログラムされているからだと言われた。もちろん猫科の動物も、単独ではある

が、餌取り行動をし、犬科とは異なったスタイルでネズミを捕獲する。しかしこれは決して遊びではない。ただ、飼い猫は空腹ではないためにネズミを食べないだけのことである。

このことにより、日高氏が主張される遺伝的プログラムの意味がより深く理解できた。

ホモサピエンスの特異性については、自分の研究領域外であり、より複雑な問題で、明確なことはいいにくいだが、と断わりながら、人間特有の欲望の『起源』にもふれられた。例えばクロマニヨンがネアンデルタールを滅ぼしたのも、領地侵略イコール利益増大であったと推察されるし、クロマニヨン直系のホモサピエンスがそのクロマニヨンの遺伝的プログラムを引き継いで、それが物欲、さらに金銭欲という形でエスカレートし、紀元前数千年前の王侯貴族のころから、文明の発達と共に進化したというしかないだろうと話された。

ただ、現在でも、さほど豊かでなくとも自然環境の中で採取狩猟して生活をする人たちもいる。原始さながらの生活を営む、文明から隔絶されたネイティブ等にはそれが見られないのは文明汚染が少ないということであろう。

さらに現在でも、文明の中にありながら、村とか地域とかあるいは集団とかで、拝金主義を絶対否定し、欲望にとらわれない生活を守り続けている例は世界各地に多く実在している。

少し様相は違うが、日本の「一燈園」の生

活がこれと共通性を持っていると思われる。

では、それは遺伝的プログラムの違いであるのかといえば、決してそうではなく、その人たちは自らの主義主張と伝統に立って、それを守り抜く努力をしているのであって、拝金主義に対する道徳的否定に徹しているからこそ成り立っているものである。

会の途中から参加された方もあり活気のある研究会であった。(文責 ト部文麿)

第7回銀座ナイトセミナー
「生きる」シリーズ

第7回銀座ナイトセミナー「生きる」シリーズが、平成12年4月27日(木)18時より、生存科学研究所会議室にて開かれた。

「言語学者の『生きる』」と題して、東京薬科大学名誉教授の志田信男氏による報告が行われた。志田氏は、1930年生まれの69歳である(5月24日で満70歳)。志田氏は、言語学、西洋古典学が専門だが、アラビア医学や東洋医学、菌学にも造詣が深い。雑誌「伝承と医学」(ポエブス舎)の編集発行人としても知られる。詩人としてはエピグラム詩集「やばのろぎあ」6巻を刊行している。

志田氏にとって、「生きる」ということを考える原体験は、太平洋戦争だった。1945年3月10日の東京大空襲、それに続く8月15日の敗戦。工業高校に在籍していた志田氏は、学徒動員の経験もある。戦後は、戦災と同時に発病した肋膜炎で療養生活を送った。学生時代は、中学校や高校の教師をして学費を稼いだ。いまどきの恵まれた学生とは違うので

ある。

敗戦の経験から、志田氏は、西欧精神の根源を知りたいと考えた。そのためには、ギリシャ、ラテン語を原典で読まなければならない。東大進学後、まず言語学科で言語の本質と理論を、そして大学院で西洋古典学を学ぶというプランを立て、実行した。言語学では、印欧比較言語学、ソシユール、アメリカ構造言語学、音声学を学んだ。ソシユールの、一般言語理論にはずいぶん影響を受けたという。西洋古典学では、ギリシャ悲劇のアイスキュロスを専攻した。またラテン文学では、Juvenalis, Martialis という2人のラテン詩人から大きな影響を受けた。

東京薬科大学で学生にドイツ語、ラテン語を教えるかたわら、現代ギリシャ詩人セフェリスに出会い、その詩集の翻訳で、91年度ギリシャ国文学翻訳賞(アテネ)を受賞した。

「あと10年ぐらいは仕事をしたい」と志田氏は語った。そのためには健康でなければならない。インフルエンザと交通事故には気を付けているそうだ。「願わくは、将来すべての仕事からリタイアし、晴耕雨読の日が訪れたあかつきには、ホメロスをはじめとするギリシャの詩人たちと心のおもむくままに交流し、対話のできる生活を持ちたいものである」(「ギリシャと私」より)とあるが、伝承医学など多方面にわたり関心を持つ志田氏にとってこの日は遠い先のことであろう。

(津谷喜一郎/北澤京子)

21世紀世界の文明と生存の研究会

第4回21世紀世界の文明と生存の研究会が、平成12年4月8日（土）18時から、生存科学研究所会議室にて開催された。

日本に来ている留学生の問題の諸相について、東京大学留学生センターの重松・ステイブン氏から解説を聞いた。

わが国への留学生は1983年の「留学生10万人計画」の頃から増加し始め、著しく多くなったが、わが国の経済状態の悪化と並行して減少し、現在では横ばいとなっている。こうした多くの留学生も、国費留学生、私費留学生、（出身国の）政府派遣留学生などに分けられる。あるいは、専門学校、大学、大学院などのレベルによっても分けられる。これら留学生がわが国において抱える問題は、それぞれの置かれた立場や状況によって異なってくる。

今回はとくに大学院レベルの留学生がもつ問題について紹介があった。文化の違いそのものによって生じる問題、さらには制度の違いや、そうした違いを十分に理解していないために起こる問題など、さまざまな種類の問題が紹介された。とくに大学院レベルの留学生では言語が自由にならないこと、日本人の生活や態度に対する不満、大学での講義のあり方への不満などが具体的にあげられた。

こうした問題は、一つには日本の制度や体制の問題であるが、他方では留学生個人の無理解や誤解によるところもある。こうした異文化での生活をよりよいものにするために

は、事前の十分な情報、あるいは周囲の人々の異文化出身者に対する理解や包容が不可欠である。

また、研究会参加者の感想としては、教育制度の違いや教育方法の違いによって生じる誤解や不満もあり、国際的な場面での誤解を避けるためには、そうした幅広い知識や理解が必要であることを痛感するという意見があり、収穫の多い一夕であった。（丸井英二）

寄贈図書



しだのぶお詩集
やばのろぎあ V
エピソード・マルティアーリスの傲び

しだのぶお 著
1986年発行
発行所 潮流出版社

世界現代詩文庫⑭
セフェリス詩集

志田信男 訳・編
1988年発行
発行所 土曜美術社



研究所日報

3月17日（金）3役会

4月8日（土）生存科学研究講座打ち合わせ
第4回「21世紀世界の文明と生存の研究会」

4月27日（木）編集小委員会

第1回常務理事会
第7回銀座ナイトセミナー